

# 令和6年度 第2回東松山市教育振興基本計画審議会 次第

令和6年7月17日（水）  
午前9時30分から  
総合会館3階 304会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

- (1) 教育委員会の事務に関する点検評価報告書（案）について
- (2) その他

4 答 申

5 閉 会

令和 6 年度第 2 回東松山市教育振興基本計画審議会

令和 6 年 7 月 1 7 日（水）

（案）

令和 6 年 7 月 1 7 日

東松山市教育委員会  
教育長 吉澤 勲 様

東松山市教育振興基本計画審議会  
会 長 小 出 高 義

令和 6 年度教育委員会の事務に関する点検評価報告書（案）について（答申）

令和 6 年 7 月 3 日付け東松教総発第 0 6 2 5 0 0 2 号で諮問のあった令和 6 年度教育委員会の事務に関する点検評価報告書（案）については、慎重審議の結果、原案は適切であると認め、ここに答申いたします。

なお、答申に当たって、別紙のとおり意見・提言を提出いたします。

下記のとおり、各施策に対して意見・提言を提出します。

基本目標	I 学校教育の充実	施策	(1) 確かな学力の確立
◇児童生徒一人一人の個別最適な学びの実現のため、引き続き、授業改善の推進と学習環境の整備を図られたい。			

基本目標	I 学校教育の充実	施策	(2) 社会性・国際性が身に付く教育の実践
◇「あいさつ・返事・靴そろえ」の目標を家庭及び地域と共通理解・共通実践するとともに、児童生徒の状況に応じた粘り強い指導に取り組まれたい。			

基本目標	I 学校教育の充実	施策	(3) 豊かな心と健やかな体の育成
◇外出や運動機会の減少により児童生徒の体力の低下が見られるが、外遊びの奨励など運動習慣の確立に努め、豊かな心はもとより、健やかな体の育成を図られたい。			

基本目標	I 学校教育の充実	施策	(4) 人権を尊重した教育・幼児教育・特別支援教育の推進
◇引き続き、相談支援体制の充実を図りながら、人権を尊重した教育・幼児教育・特別支援教育を推進されたい。			

基本目標	I 学校教育の充実	施策	(5) 教員の資質・能力の向上
◇校務の効率化を図るとともに、教員が児童生徒一人一人に向き合う時間の確保や、指導力や学校経営力の向上につながる取組を推進されたい。			

基本目標	I 学校教育の充実	施策	(6) 相談体制の充実
◇SNSトラブルの防止に取り組むとともに、不登校児童生徒の思いを大切にした支援を図られたい。			

基本目標	I 学校教育の充実	施策	(7) 小・中学校9年間を一貫した教育の推進
◇桜山小学校と白山中学校の乗り入れ授業などの連携を引き続き推進し、その他の小中学校においても教員同士の各種会議での情報共有などを通じた交流を図られたい。			

基本目標	II 教育環境の整備・充実	施策	(1) 安心して快適な学習環境づくり
◇学校施設の管理に当たっては、施設点検、改修工事や修繕を適切に行い、児童生徒をはじめ施設利用者が安心して学べる環境を確保されたい。			

基本目標	II 教育環境の整備・充実	施策	(2) 学校給食の充実
◇引き続き、栄養教諭による授業等の児童生徒の食への関心を高める取組を推進するとともに、安心・安全な学校給食の提供を維持されたい。			

基本目標	Ⅲ 家庭・地域の教育力の向上	施策	(1) 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進
◇「こども家庭センター」の機能を広く周知するとともに、放課後子ども教室や放課後児童クラブの拡充に加えて、地域における子供の居場所づくりを検討されたい。			

基本目標	Ⅲ 家庭・地域の教育力の向上	施策	(2) 家庭教育支援体制の充実
◇これまでの取組を継続し、各家庭の環境に配慮した支援体制の構築を図られたい。			

基本目標	Ⅲ 家庭・地域の教育力の向上	施策	(3) 地域の教育力の向上
◇学校の情報を積極的に地域に発信するとともに、地域の人材を積極的に活用し、学校運営協議会や学校応援団の充実を図られたい。			

基本目標	Ⅳ 生涯学習の推進	施策	(1) 社会教育の充実と自主的な学習の推進
◇引き続き、市民ニーズに応じた質の高い学習機会を提供するとともに、社会教育講座の参加者増につながる取組の充実を図られたい。			

基本目標	Ⅳ 生涯学習の推進	施策	(2) 図書館の充実
◇引き続き、子供や中・高校生の読書活動が一層活発になるよう取組を推進するとともに、電子図書館「比企eライブラリ」の利用促進に向けた周知を図られたい。			

基本目標	Ⅴ 生涯スポーツの推進	施策	(1) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
◇大学を始め様々な機関との連携を検討し、子供だけでなく親子や家族が「いつでも・どこでも・誰とでも」スポーツに親しめるまちとなるような取組を推進されたい。			

基本目標	Ⅴ 生涯スポーツの推進	施策	(2) ウォーキングの推進と日本スリーデーマーチの充実
◇幼児期からの「歩育」活動やウォーキングイベントを通じ、市民スポーツとしてのウォーキングを一層推進するとともに、若年層や親子での参加促進に取り組まれたい。			

基本目標	Ⅴ 生涯スポーツの推進	施策	(3) スポーツを楽しむ環境づくりの推進
◇引き続き、関係団体との連携を図り、市民のスポーツ活動を支援するとともに、スポーツ指導者の育成の強化にも取り組まれたい。			

基本目標	Ⅵ 文化・芸術の振興	施策	(1) 文化・芸術活動の促進
◇「高坂彫刻プロムナード」を活用したイベントの開催や、「東松山市文化祭」を始めとした文化・芸術活動の支援により、市民が文化・芸術に触れる機会の充実を図られたい。			

基本目標	Ⅵ 文化・芸術の振興	施策	(2) 文化・芸術団体との協働と活動支援
◇引き続き、文化・芸術活動を行う団体に対する支援を継続するとともに、新たに文化・芸術活動を始めようとする市民に対しては、情報提供の充実を図られたい。			

基本目標	Ⅶ 文化財保護	施策	(1) 文化財の保護と継承
◇文化財を継承する取組を継続し、文化財に触れる機会を通して新たな創造につながる取組についても検討されたい。			

基本目標	Ⅶ 文化財保護	施策	(2) 文化財の啓発と活用
◇文化財の啓発と活用を効果的に実施できる体制を整え、児童生徒や多くの市民が文化財に親しむ機会の創出を図られたい。			

令和6年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

(令和5年度対象)

(案)

第2 点検評価の結果（評価調書）抜粋

第3 参考資料 2 用語解説 追加分

東松山市教育委員会

基本目標 I 学校教育の充実  
 施策 (1) 確かな学力の確立

重点取組 1		②「学力・学習状況調査」の結果の検証と指導の工夫・改善	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	国や県が実施する「学力・学習状況調査」をもとに、児童生徒一人一人の学習内容の定着や学力の伸び、学習意欲等を詳細に検証し、指導の工夫と改善に取り組む。また、国の実施要領に則した方法により検証結果をホームページで公表し、学校と家庭・地域との連携による児童生徒の学力向上に取り組む。		
	対象	市立小中学校の教職員		
	目標	「学力・学習状況調査」をもとに、学習内容の定着や学力の伸び、学習意欲等を検証し、指導の工夫と改善に取り組む。		
結果	「全国学力・学習状況調査」及び「埼玉県学力・学習状況調査」の結果を分析し、ホームページで公開した。本市全体の成果と課題を明らかにし、強みや弱みを共有することを起点に、各校における指導の工夫と改善を図った。また、小学校に市費による教員を配置し、 <u>少人数教育（すにいかあプラン）</u> を推進した。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

重点取組 2		⑤ICT端末を活用した分かりやすい授業の推進	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	一人一台の学習用端末を効果的に活用し、授業中に学習用端末を活用する場面の設定や、児童生徒の学習意欲の喚起・理解の促進となる活用法を研究する。		
	対象	市立小中学校の教職員		
	目標	市内の全教員が各教科等において学習用端末を活用した授業実践を行えることを目指す。		
結果	指導主事による各学校への訪問指導を通して、学習用端末の基本操作の定着を図り、効果的な活用場面についての研修を行った。また、市学校教育推進委員会において、児童生徒に身に付けさせたい基本的な操作項目を一覧にした、「 <u>ICTチェックリスト</u> 」の活用を研究した。さらに、各校で情報モラルについても、研修会の開催や授業に積極的に取り上げた。			
重点取組の評価	◎（十分な成果が得られた）			

その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	各学校において、「学力・学習状況調査」の結果を分析し、児童・生徒の実態を把握するとともに、実態に基づいた授業改善を行った。	
③ 基礎・基本の定着を図る指導の実践	学校教育課	◎（十分な成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	市立小学校に「すにいかあ職員」を配置し、少人数指導、補充指導を充実させた。	
④ PISA型読解力、応用力を高める取組の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	音読の充実や、文章とじっくり向き合い自分の意見を構築する学習を繰り返し行い、読解力、応用力を高める学習を充実させた。	
⑥ 理科教育の振興	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	各学校における理科の授業において、実験や観察を通して理科分野への興味を伸ばせるよう工夫改善を行い、また、科学大好きキッズを実施した。	
⑦ 外国語（英語）教育の充実	学校教育課	◎（十分な成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	全市立小中学校にALTIを配置し、授業で生きた英語に触れさせる機会を設定した。	
⑧ 帰国・外国人児童生徒への教育の充実	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	市内7校に市費による日本語指導講師を延べ10名配置し、日本語指導・学校生活への支援を充実させた。また、大学との連携により就学時の対応を強化した。	

## ■評価指標

指標名			R1	R3	R4	R5	R6	R7
全国学力・学習状況調査の全国平均に対する 換算値 【取組②】	小6国語	目標値	-	49.1	49.4	49.7	50.0	50.3
		実績値	48.6	47.1	50.3	48.4		
	小6算数	目標値	-	48.3	48.8	49.3	49.8	50.3
		実績値	47.3	47.0	49.9	46.4		
	中3国語	目標値	-	49.7	49.9	50.1	50.3	50.5
		実績値	49.5	49.5	48.6	50.1		
中3数学	目標値	-	48.5	48.9	49.3	49.7	50.1	
	実績値	47.7	47.7	46.7	48.0			
指標の説明	全国学力・学習状況調査における東松山市の平均正答率を全国の平均正答率で除して50を乗じた数値（東松山市平均正答率÷全国平均正答率×50）							
指標の達成率	<b>B（90%以上100%未満）</b>							
結果の分析	小6国語では、「話すこと・聞くこと」の領域は比較的高く全国平均に近い正答率であるが、「書くこと」の正答率は全国と比較して3.0%低いことから記述に関して課題があり、自分の考えを書き表す取組を要する。小6算数では、「図形」の領域の正答率が低く全国との差も4.8%と大きい。中3国語では、全体的に全国・県と近い分布であり、また、低位層が少なく上位層が多いため学習の定着がうかがえるものの、発展的な内容の理解や活用に課題がある。中3数学では、全体的に全国・県を下回る正答率であり、特に「図形」領域は正答率3割を切っており課題が大きい。							

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	<b>79点</b>	<b>○（一定の成果が得られた）</b>
今後の方向性	<p>◇引き続き、「<u>主体的・対話的で深い学び</u>」を実現する授業改善を行うとともに、<u>ICT</u>端末等を活用し、個別最適な学びを実現するための取組を推進する。</p> <p>◇重点取組や他の取組との関連性や施策全体の方向性を意識し、「<u>東松山の学習指導スタンダード</u>」「<u>東松山の学級経営スタンダード</u>」等を活用し、児童生徒の<u>非認知能力</u>を育成するとともに、確かな学力の確立を図っていく。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇児童生徒一人一人の個別最適な学びの実現のため、引き続き、授業改善の推進と学習環境の整備を図られたい。
-------	---

基本目標 I 学校教育の充実  
 施策 (2) 社会性・国際性が身に付く教育の実践

重点取組 1		①家庭と連携した「あいさつ・返事・靴そろえ」等の徹底	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	小中学校全ての教室に「あいさつ・返事・靴そろえ」を掲げ、児童生徒の意識の高揚を図る。埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査の「規律ある態度」の達成項目を、児童生徒・保護者・学校が共通理解・共通実践することで、「規律ある態度」の育成に努める。		
	対象	市立小中学校の児童生徒・保護者・教職員		
	目標	埼玉県学力・学習状況調査の「規律ある態度」の達成度8割を超える項目の割合を98%以上とする。		
結果	小中学校ともに、目標の98%を下回った。特に、「整理整頓」「話を聞き発表する」の項目は、小学校5年生から中学校3年生まで全て下回る結果となった。整理整頓の意義やよさを理解させたり、自分の意見をもち発表することの楽しさに触れさせたりする活動を通して、児童の発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けられるようにする必要がある。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

重点取組 2		③国際化に対応する教育の推進	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	外国語教育や英語の授業、 <u>ALT</u> との交流活動を通して、コミュニケーション能力を育成し、国際理解を深める教育を実践する。		
	対象	市内小中学校の児童生徒		
	目標	コミュニケーションへの積極性を高め、言語や文化についての体験的理解を深める。		
結果	全市立小中学校に <u>ALT</u> を配置し、授業中だけではなく生活場面でも <u>ALT</u> との交流活動を通して、コミュニケーション能力を育成し、国際理解を深めることができた。			
重点取組の評価	◎（十分な成果が得られた）			

その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
② 地域資源活用による伝統と文化を尊重する教育の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、地域の方を授業や行事に招くことができるようになり、地域に関わる伝統や文化に関わる学習を推進することができた。	
④ 発達の段階に応じた進路指導・キャリア教育の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	児童生徒一人一人にキャリアパスポートを作成し、個人情報の取扱いに配慮しながら活動の記録をファイリングして次年度に引き継いだ。中学校では、進路面談を通じて、生徒が自らの進路を選択できるよう指導・助言を行った。	
⑤ 文化活動・ボランティア活動の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	スリーデーマーチ中学生ボランティアや、こころの劇場への参加等により、児童生徒の社会的、感情的なスキルを育てることにつながり、一定の成果が得られた。	
⑥ 持続可能な開発のための教育（ESD）の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	各教科や総合的な学習の時間において、環境教育やエネルギー教育を実施した。	

## ■評価指標

指標名			R1	R3	R4	R5	R6	R7
「規律ある態度」の達成項目の割合（％） 【取組①】	小学校	目標値	-	96	97	98	99	100
		実績値	94	84.4	72.2	80.6		
	中学校	目標値	-	96	97	98	99	100
		実績値	94	89.9	86.1	83.4		
指標の説明	埼玉県学力・学習状況調査の「規律ある態度」達成目標の全項目のうち、達成度が8割を上回っているものの項目数の割合							
指標の達成率	C（80%以上90%未満）							
結果の分析	小中学校ともに、目標の98%を下回ったが、小学校については令和4年度から若干の改善が見られた。中学校については、令和4年度よりも8割を1項目下回った。「あいさつ」については、小学校6年生から中学校3年生までは8割を上回っており、各学校の取組が高学年になるほど身に付いている。「整理整頓」「話を聞き発表する」については、令和4年度に引き続き8割を下回る項目が多い。							

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	76点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	<p>◇「規律ある態度」を育成するために、学校と家庭がより密に連携して、児童生徒の実態や課題を共有し、育成したい子供像を明確にすることにより、児童生徒が基本的な生活習慣を身に付けたり、よりよい人間関係を構築したりするための基礎となる力を身に付けていく。</p> <p>◇キャリア教育やボランティア活動などを通じて、児童生徒が社会的に自立するための力を育成する。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇「あいさつ・返事・靴そろえ」の目標を家庭及び地域と共通理解・共通実践するとともに、児童生徒の状況に応じた粘り強い指導に取り組みきたい。
-------	--

基本目標 I 学校教育の充実  
 施策 (3) 豊かな心と健やかな体の育成

重点取組 1		① 道徳教育の充実	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	生命の大切さを学ぶため、学校・家庭・地域のつながりを強化し、「命の教育」を実践する。また、授業を進めていく上で参考となる実践例や指導方法、評価等をまとめた「東松山市道徳科スタンダード」を活用し、道徳教育の充実を図る。		
	対象	市立小中学校の児童生徒及び教職員		
	目標	「東松山市道徳科スタンダード」を活用し、児童生徒が考え議論する道徳の授業を実践する。		
結果	各学校において、「東松山市道徳科スタンダード」を活用し、ねらい・児童生徒の実態・教材などを研究することにより、道徳の授業を充実させることができた。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

重点取組 2		⑥ 児童生徒の体力の向上	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	授業研究会や学校指導訪問を通し、教員の授業力の向上を図り、体育・保健体育の授業を充実させることにより、児童生徒に運動の楽しさを伝え、バランスの良い体力を身に付けさせる。		
	対象	市内小中学校の児童生徒及び教職員		
	目標	新体力テストにおいて、全国平均を上回る項目数を増加させる。		
結果	小5女子及び中2男女については、全ての項目で全国平均を超えることができ、目標値を達成することができた。小5男子については、「握力」と「ボール投げ」について全国平均を超えることができなかった。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

■ その他の主な取組

主な取組	担当課	取組の評価
② 体験活動の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	社会科見学や自然体験等、発達段階に応じた様々な体験活動を推進した。	
③ 読書活動の充実	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	各小学校において、学校司書が中心となり図書だよりや季節のイベントなどの工夫を行った。毎月第2・第4水曜日を「ノーゲームデー」とし、家族との語りいととも読書を推奨した。	
④ 健康教育・食育の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	様々な感染症に対する正しい知識の習得と適切な予防行動を実践した。	
⑤ 危険ドラッグを含めた薬物乱用防止教育の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	各小学校高学年や各中学校の授業等において「薬物乱用防止教室」を実施した。	
⑦ 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質の育成	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	体育や保健体育の授業を通じた運動の楽しさを実感させる取組を推進した。また、様々な運動に触れ、自分に合った運動や楽しめるスポーツを見つける環境を整えた。	
⑧ 運動部活動の充実	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	各中学校のニーズに応じた外部指導者の派遣と学校教職員との連携指導を充実させた。	

## ■評価指標

指標名			R1	R3	R4	R5	R6	R7
新体力テストの全国平均を上回る項目数 【取組⑥】	小5男子	目標値	-	6	7	8	8	8
		実績値	5	7	5	6		
	小5女子	目標値	-	8	8	8	8	8
		実績値	7	8	7	8		
	中2男子	目標値	-	8	8	8	8	8
		実績値	7	7	6	8		
中2女子	目標値	-	8	8	8	8	8	
	実績値	7	8	8	8			
指標の説明	新体力テストにおいて、東松山市の平均値が全国の平均値を上回った項目数 【小学校】5年生8種目中 男女別 【中学校】2年生8種目中 男女別							
指標の達成率	<b>B（90%以上100%未満）</b>							
結果の分析	小5女子・中2男女については、全ての項目で全国平均を超えることができた。しかし、埼玉県平均には届いていない項目が多数あり、引き続き体力向上に取り組む必要がある。小5男子については、「握力」と「ボール投げ」に課題があり、日常的な運動機会の増加や体育時の運動量の増加などを中心に、引き続き体力向上に取り組む必要がある。							

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	<b>70点</b>	<b>○（一定の成果が得られた）</b>
今後の方向性	<p>◇各校において、より運動の楽しさを実感させながら体力の向上を目指すとともに、専門的な指導力を有する人材の積極的な活用等に取り組み、保健体育・運動部活動の充実を図る。</p> <p>◇「東松山市道徳科スタンダード」の活用を進め、児童生徒が考え議論する道徳の授業を中心に、全教育活動において実践し、豊かな人間性を育む。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇外出や運動機会の減少により児童生徒の体力の低下が見られるが、外遊びの奨励など運動習慣の確立に努め、豊かな心はもとより、健やかな体の育成を図られたい。
-------	---

重点取組 1		①豊かな人権感覚の育成	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	「人権感覚育成プログラム」を活用した授業の継続実施		
	対象	市立小中学校の児童生徒		
	目標	「人権感覚育成プログラム」の教職員向け研修における活用と、児童生徒への授業等において活用した学校数の増加により、児童生徒に対し着実に人権感覚の育成を行う。		
結果	「人権感覚育成プログラム」を全16校で活用し、児童生徒に人権感覚を育成するための取組を推進した。			
重点取組の評価	◎ (十分な成果が得られた)			

重点取組 2		⑤幼児教育振興懇談会を中心とした幼・保・小連携の推進	担当課	保育課
取組の内容	概要	幼児教育振興懇談会及び幼・保・小三者連絡会等の実施		
	対象	幼稚園・保育園の園児と小学校低学年の児童及び保育士・教職員		
	目標	幼児教育の一層の振興に向けて、幼稚園・保育園・小学校の職員による意見交換等を行い連携を強化する。		
結果	8月の研修会では外部講師を招き、幼児教育と小学校教育との架け橋期に関する講演を実施したところ、幼稚園・保育園・小学校の関係者90人が参加した。また、幼保小三者連絡会を3回開催し、保育及び授業を参観し意見交換を行うことで幼・保・小の連携を図ることができた。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

### ■その他の主な取組

主な取組	担当課	取組の評価
② 様々な人権課題に対応した教育の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	教員を対象とした研修会や学校における人権教育の実践的な研究を行い、指導方法の工夫・改善を行った。	
③ 虐待から子供を守る取組の推進	学校教育課	◎ (十分な成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	虐待の早期発見を図るための教育相談体制の充実や、定期的なアンケートの実施など、学校と関係機関との連携強化を図った。	
④ 子育ての目安「3つのめばえ」の活用促進	保育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭を対象とした幼保小三者連絡会を年3回開催し、活用促進を図った。	
⑥ 歩育事業の推進	保育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	てくてくわくわく歩育ブックを保育園等へ配布して日々の歩育の取組を促した。また、保育園や幼稚園に対して日本スリーデーマーチへの積極的な参加を促進した。	
⑦ 共生社会を目指した「多様な学びの場」の充実	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	通級指導や特別支援学級と通常学級の交流学习を実施した。	
⑧ 障害児就学相談・支援体制の充実	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	障害のある子供に対し、幼児期から適切な教育的対応ができるよう、就学相談調整会議等を活用し、就学相談体制を充実させた。	
⑨ 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	個別の指導計画を作成し、個に応じた支援の充実を図った。	

## ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
「 <u>人権感覚育成プログラム</u> 」の活用校数（校） 【取組①】	目標値	-	14	15	16	16	16
	実績値	12	16	16	16		
指標の説明	「 <u>人権感覚育成プログラム</u> 」を教職員向けの研修に活用し、かつ児童生徒への授業等において活用した学校数						
指標の達成率	A（100%以上）						
結果の分析	全ての市立小中学校において「 <u>人権感覚育成プログラム</u> 」を活用した授業を実施することができた。						

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	77点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	◇「 <u>人権感覚育成プログラム</u> 」を活用した授業を継続して行うことで、児童生徒に対し着実に人権感覚の育成を行う。 ◇ <u>幼児教育振興懇談会</u> の各事業を通じて幼・保・小の連携を強化するとともに、小学校への円滑な接続を推進して小一プロブレムの解消につなげていく。	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇引き続き、相談支援体制の充実を図りながら、人権を尊重した教育・幼児教育・特別支援教育を推進されたい。
-------	---

基本目標 I 学校教育の充実  
 施策 (5) 教員の資質・能力の向上

重点取組 1		②児童生徒一人一人を伸ばす指導力及び学級経営力の向上	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	個別最適化された学びを実現し、児童生徒の理解状況や能力にあった学びを提供するために、ICT教材を授業に導入することや「東松山の学習指導スタンダード」の活用を促し、教員の指導力の向上を図る。		
	対象	市立小中学校の教職員		
	目標	埼玉県学力・学習状況調査における学力を伸ばした子の割合を増加させる。		
結果	令和5年度埼玉県学力・学習状況調査の結果より、小学校・中学校ともに目標値を達成することができなかったが、「東松山の学級経営スタンダード」を活用した、信頼関係を基盤として非認知能力や学習方略を向上させる取組や、ICTを使った取組を推進した。			
重点取組の評価	△ (多少の成果が得られた)			

重点取組 2		③児童生徒理解と指導力向上のための校内研修の充実	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	教育委員会による学校指導訪問で、学校の研究課題やニーズに応じた指導・助言を行う。また「小・中学校特色化支援事業」を実施し、成果を市内全校で共有する。		
	対象	市立小中学校の教職員		
	目標	指導訪問で把握した学校課題に基づく指導・助言や「小・中学校特色化支援事業」の成果発表会を実施する。		
結果	指導訪問を年間を通して行い、各学校に対して指導・助言を行った。また、「小・中学校特色化支援事業」の成果発表会をオンラインで実施し、各研究指定校の取組を市内に広げることができた。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① 教員のライフステージに応じた研修の実施	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	年次研修や東松山師範塾など、教員のライフステージに応じた様々な研修への参加を促した。	
④ 人事評価制度の活用	学校教育課	◎ (十分な成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	人事評価制度に基づいた各教職員の目標設定や結果の検証を行うなど、人材育成や人事管理に当該制度を適切に活用した。	
⑤ 教職員による不祥事の根絶に向けた取組の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	校長会・教頭会による指導と各学校における不祥事防止研修を定期的実施した。また、学校訪問等の機会や調査において、実施内容の見届けを行った。	
⑥ 学校における働き方改革の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	職員会議のペーパーレス化、欠席連絡等の電子化、カエル会議など各校のよい取組を広め、働きやすい職場づくりを推進した。あわせて、統合型校務支援システムの導入に向けた取組を推進した。	
⑦ 学校評価の効果的な活用	学校教育課	◎ (十分な成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	学校の目標やねらいに応じた評価項目の設定により、適宜評価及び検証を行った。	
⑧ コミュニティ・スクールの充実	学校教育課	◎ (十分な成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	学校運営協議会を開催し、地域・家庭と連携し、よりよい教育環境の構築を推進した。	

## ■評価指標

指標名			R1	R3	R4	R5	R6	R7
学力を伸ばした児童生徒の割合 (%) 【取組②】	小学校	目標値	-	70.2	71.2	72.2	73.2	74.2
		実績値	68.2	75.1	66.7	63.2		
	中学校	目標値	-	68.4	69.4	70.4	71.4	72.4
		実績値	66.4	67.8	70.6	56.9		
指標の説明	埼玉県学力・学習状況調査における学力を伸ばした子の割合							
指標の達成率	C (80%以上90%未満)							
結果の分析	小学校・中学校ともに目標値を達成することができなかった。特に、小6算数においては、学力を伸ばした児童の割合が49.0%、小5算数が56.3%と低い状態である。また、中1数学が51.6%、中3国語は51.3%となっている。学力中位層の伸びが他の層と比較すると少なく、低位層への手立てと同時に中位層を伸ばしていく必要がある。							

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	68点	○ (一定の成果が得られた)
今後の方向性	<p>◇学校内での教員同士の学び合いや、オンライン等を活用した研修に積極的に取り組み、教員の指導力や学級経営力の向上を図ることにより、児童生徒の学力向上を目指す。</p> <p>◇学力向上については、話し合い活動や学び合い活動等の協働的な学びの充実や、学習用端末の活用を通じた個別最適な学びの充実により、学力中位層の児童生徒を伸ばしていく。</p> <p>◇校務の電子化・効率化を進め、本来の職務である「教員が児童生徒と向き合う時間」を増加させる。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇校務の効率化を図るとともに、教員が児童生徒一人一人に向き合う時間の確保や、指導力や学校経営力の向上につながる取組を推進されたい。
-------	---

基本目標 I 学校教育の充実  
 施策 (6) 相談体制の充実

重点取組 1		④いじめ防止対策の推進	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	いじめ問題対策連絡協議会やいじめ問題調査審議会など、いじめ防止対策推進法の規定に基づき設置した組織を活用し、いじめ防止対策やいじめの現状分析を進め、学校におけるいじめ問題の解消に向けた取組を支援する。		
	対象	市立小中学校の教職員		
	目標	いじめの防止等に係る組織を活用し、教職員の資質能力の向上を図る。		
結果	いじめ問題対策連絡協議会を7月と2月に実施し、学校におけるいじめの現状や、生徒指導専門職員からの報告をはじめ、様々な視点から意見交換を行った。生徒指導専門職員については、令和6年3月末日現在で、小・中・高等学校訪問を192回、関係施設訪問を31回、関係機関等との会議出席を25回を行い、状況把握や指導・助言を行った。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

重点取組 2		⑥不登校対策の充実	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	「不登校初期対応指針」に則り、児童生徒の小さな変化を見逃さない体制を確立する。また、総合教育センターでの「ふれあい教室」や相談活動の実施を通じ、児童生徒の支援を行う。		
	対象	市立小中学校の児童生徒・保護者・教職員		
	目標	不登校児童生徒の復帰率を、小学校42.0%以上、中学校29.0%以上とする。		
結果	各校において着実な対応を行ったが、不登校児童生徒の増加により、復帰率（部分復帰を含む）は小学校25.0%、中学校16.3%となった。不登校児童生徒には、復帰に向けて時間を掛けてじっくりと対応し、信頼関係を構築するために様々な面から支援を継続していくとともに、不登校を未然に防止し、早期の兆候を見逃さないよう「不登校初期対応指針」を改めて徹底する必要がある。			
重点取組の評価	△ (多少の成果が得られた)			

■その他の主な取組

主な取組	担当課	取組の評価
① 学校教育相談活動の充実	学校教育課	◎ (十分な成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）などの専門家や総合教育センター、関係機関との連携を図り、各学校の教育相談活動体制を整備した。SSWの支援対象となった児童生徒は270名にのぼり、着実な相談活動が実施された。	
② 生徒指導体制の充実	学校教育課	◎ (十分な成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	生徒指導主任研修会に指導主事が参加し情報提供を行うなど、東松山モデル「つながぐ」を推進し、学校とのつながりを一層強め、校内生徒指導体制の充実や児童生徒一人一人に対する理解に基づいた積極的な生徒指導を展開した。	
③ 非行・問題行動の防止とサポートチームの活用	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	薬物乱用防止教室等を実施し、家庭と連携した問題行動の未然防止に取り組んだ。	
⑤ インターネット、携帯電話等に関する情報モラル教育の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	各学校において、児童生徒が中心となりネットルールを作成することや、ネットトラブル教室の実施等により情報モラル教育を充実させるとともに、家庭との連携を図った。	
⑦ 重大事件再発防止に向けた取組	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	庁内連携会議による情報共有と生徒指導専門職員による学校への支援、助言を行った。	

## ■評価指標

指標名			R1	R3	R4	R5	R6	R7
不登校児童生徒の復帰率（％） 【取組⑥】	小学校	目標値	-	34.0	38.0	42.0	46.0	50.0
		実績値	25.0	37.5	43.8	25.0		
	中学校	目標値	-	23.0	26.0	29.0	32.0	35.0
		実績値	18.3	47.9	21.3	16.3		
指標の説明	不登校児童生徒に対する「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」の割合（部分復帰を含む） ※令和5年度の実績値は暫定値です。							
指標の達成率	<b>D（80%未満）</b>							
結果の分析	令和5年度における不登校児童生徒の復帰件数・復帰率（部分復帰を含む）は、小学校においては14件・25.0%、中学校において20件・16.3%となり、目標値を上回ることができなかった。							

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	67点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	<p>◇いじめや不登校、問題行動について、基本方針を学校や関係機関と共有し、組織的な体制の確立と連携を図りながら対応していく。</p> <p>◇個々の児童生徒の悩みを把握するための関係づくりやSOSの発信の仕方を学ぶ機会を設ける。</p> <p>◇生徒指導・教育相談研修会、イラモヤアンケート、生徒指導カルテの活用等、具体的な取組を継続し、更に充実させていく。</p> <p>◇不登校を未然に防止するために、早期の兆候を見逃さないことや、家庭等の連携を更に強化する。</p> <p>◇児童生徒が社会的に自立することを目的に、多様な教育機会の確保や様々な専門スタッフとの連携を通じて不登校児童生徒への支援を進めていく。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇SNSトラブルの防止に取り組むとともに、不登校児童生徒の思いを大切にされた支援を図りたい。
-------	--

基本目標 I 学校教育の充実  
 施策 (7) 小・中学校9年間を一貫した教育の推進

重点取組 1		②小中一貫教育の推進	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	桜山小学校と白山中学校を小中一貫教育特認校として指定し、両校での児童生徒、教員の交流を進めることにより、小中の円滑な接続を図り、学習意欲の向上につなげる。		
	対象	桜山小学校と白山中学校の児童生徒及び教職員		
	目標	両校の教員が指導内容や指導方法を互いに相談しながら、異校種乗り入れのよさを発揮した授業実践に取り組む。		
結果	小中学校ともに週6時間の乗り入れ授業を実施し、小学校では専門性の高い授業により児童の意欲向上につなげ、中学校では生徒に安心感を与えるとともに、教員間で児童生徒の様子を情報共有することで円滑な接続を図った。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

■その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① 小中一貫教育特認校制度の実施	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	市内近隣小中学校における児童生徒の交流、教職員の連携及び連絡会議を適宜行った。また、小中一貫教育で得た知見を活用し、他の小中学校でも連携についての模索を行った。	
③ 外国語活動・英語教育の充実	学校教育課	◎（十分な成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	全ての市立小中学校にALTIを配置し、外国語・英語指導の充実を図った。	
④ 地域の教育力の活用	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	家庭科等、特定教科のボランティアを依頼するなど、各校が工夫しながら教育活動を進めることができ、一定の成果が得られた。また、様々な知識・経験のある地域の方に協力いただき、児童生徒にとってより豊かな学びの場を作ることができた。	

### ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている生徒の割合（%）【取組③】	目標値	-	70.6	71.6	72.6	73.6	74.6
	実績値	68.6	71.8	72.8	68.4		
指標の説明	埼玉県学力・学習状況調査の「英語学習を通して英語を使いたいと思っている」生徒の割合						
指標の達成率	<b>B（90%以上100%未満）</b>						
結果の分析	「使いたいと思うようになった」「1度でも使いたいと思ったことがある」を選択した生徒は、60.0%と、令和4年度を下回った。依然として、「全く思わない」を選択した生徒も8.8%おり、英語を使ったコミュニケーションに対する興味を高め、楽しみながら学習を進めることができるよう、引き続き授業改善を行っていく。						

### ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	<b>73点</b>	<b>○（一定の成果が得られた）</b>
今後の方向性	<p>◇小中一貫教育特認校の成果を市内小中学校で共有し、各校で実現できる連携内容や手法については、積極的に導入し、市内における小中連携の質を向上させる。学校教育研究推進委員会において研究を進め、中学校区を中心に取組を推進する。</p> <p>◇英語でコミュニケーションを取ることのよさや楽しさを、授業において十分に実感させ、「英語に強い子供を育てる」ことを推進していく。</p>	

### ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇桜山小学校と白山中学校の乗り入れ授業などの連携を引き続き推進し、その他の小中学校においても教員同士の各種会議での情報共有などを通じた交流を図られたい。
-------	--

基本目標 II 教育環境の整備・充実  
 施策 (1) 安心して快適な学習環境づくり

重点取組 1		①学校施設の整備推進	担当課	教育総務課
取組の内容	概要	定期的な点検や診断を実施し、学校施設の保全・維持管理を行う。広範囲に劣化が見られる屋上や外壁等の改修を行う。		
	対象	市立小中学校施設		
	目標	老朽化の影響が大きく、早期の改修が望まれる箇所について、計画的な整備を実施し、安全で快適な学習環境を維持する。		
結果	小中学校5校の建築物の定期点検及び3校の工作物の健全度調査を実施し、点検結果に基づき、危険性の高い箇所の修繕するとともに、校舎等の照明LED化及び民営プールを活用した水泳授業のモデル的实施について、翌年度からの予算化を図った。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

重点取組 2		④新型コロナウイルス感染症対策の徹底	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	国及び県からの補助金と市費により配置した学校支援員が、各学校内の消毒作業や、感染予防に係る通知文の印刷業務などを行うことで、学校を支援する。		
	対象	市立小中学校		
	目標	市内16校に学校支援員を配置し、教職員と共に感染症対策を徹底する。		
結果	市内16校全ての市立小中学校に学校支援員を配置し、教職員と共に消毒作業等の新型コロナウイルス感染症対策を実施した。			
重点取組の評価	◎ (十分な成果が得られた)			

重点取組 3		⑩「学校適正規模の基本的な方針」の運用	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	「東松山市立小・中学校適正規模に関する基本的な方針」に基づき、適正な規模を維持できない学校については、児童生徒数の推移を見定め、地域性を考慮しながらよりよい学習環境の整備について検討する。		
	対象	市立小中学校		
	目標	児童・生徒数や学級数の推移を見守り、必要に応じて基本方針に基づいた取組を行う。		
結果	各学校の児童生徒数や学級数の推移等から、現時点において適正規模化を実施する小・中学校はないことを確認するとともに、保護者を含めた地域住民や学校関係者からも方策実施の意見等がなかった。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

■ その他の主な取組

主な取組	担当課	取組の評価
② 学校施設非構造部材耐震対策の推進	教育総務課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	点検で指摘を受けた1校の吊り天井照明を改修することで非構造部材の耐震対策を推進した。	
③ 学校図書・教材・教具の整備・充実	教育総務課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	学校図書については、各校に予算配当し整備の充実を図るとともに、教材・教具についても各校のニーズと在庫状況に鑑みて、整備を行った。	
⑤ 大気中の放射線量の測定	教育総務課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	学校施設内空間線量測定を8月と2月の2回実施し、基準値内であることを確認した。	

⑥ 食物アレルギー、アナフィラキシーへの対応体制の確立	学校教育課	◎（十分な成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	各学校で作成した危機管理マニュアルに則した全教職員による共通理解と共通行動を行った。	
⑦ 家庭、地域と連携した防犯・交通安全教育の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	交通安全教室を実施し、地域の人材を活用した啓発学習を実施した。	
⑧ 通学路の点検整備	学校教育課	◎（十分な成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	学校関係者及び保護者による通学路点検を実施し、通学路の安全を確保することができた。	
⑨ 主体的に行動できる児童生徒の育成をめざす防災教育の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	定期的な避難訓練の実施と安全教育による児童生徒の意識の高揚を図った。	

### ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
学校図書館図書標準の達成校割合（％） 【取組③】	目標値	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	実績値	93.8	87.5	87.5	87.5		
指標の説明	学級数に応じて定められた学校図書館図書の標準冊数以上の蔵書数を所蔵している学校の割合						
指標の達成率	<b>C（80%以上90%未満）</b>						
結果の分析	全ての市立小中学校で学校図書購入を進め、蔵書総数は令和4年度末を上回っているものの、令和3年度に相当数の除籍を行った2校が図書標準の定める蔵書数を満たさなかった。						

### ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	<b>76点</b>	<b>○（一定の成果が得られた）</b>
今後の方向性	<p>◇小中学校の計画的な施設改修や教材配備を実施するとともに、定期的な建築物や工作物の点検等により安全性を確保し、かつ、包括管理業務委託の導入に向けた準備を進める。</p> <p>◇学校プールの老朽化対策として、民営プールを活用した水泳授業をモデル的に実施しながら、今後の更なる取組推進を検討する。</p> <p>◇通学路については、家庭や地域と連携し、引き続き通学路の安全性を確保する。</p>	

### ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇学校施設の管理に当たっては、施設点検、改修工事や修繕を適切に行い、児童生徒をはじめ施設利用者が安心して学べる環境を確保されたい。
-------	---

基本目標 II 教育環境の整備・充実  
 施策 (2) 学校給食の充実

■重点取組 1		③栄養教諭による授業や試食会等を通じた食育の推進	担当課	教育総務課
取組の内容	概要	学校給食を「生きた教材」として活用できるよう献立を工夫する。給食の時間や授業、試食会などを通じて、児童生徒及び保護者に「食」の大切さを分かりやすく指導する。		
	対象	市立小中学校の児童生徒及び保護者		
	目標	児童生徒の心身の健全な発達に資するとともに、食に対する正しい理解と適切な判断力を養う。		
結果	栄養教諭による小中学校7校への食育授業を実施するとともに、小学校7校で保護者向けの試食会を実施した。また、毎月19日には食育の日献立として日本の郷土料理や世界の料理を提供し、児童生徒からのリクエストや話題のテーマ、東松山市にちなんだ献立を取り入れた。栄養教諭作成の「ランチたいむ通信」では、食にまつわる情報をクイズ形式で各学校に配布し、食への関心を高めた。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

■その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① 安心・安全な学校給食の提供	教育総務課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	令和8年4月を目途とした調理業務等の委託化について、教育委員会会議及び学校給食運営委員会等で了解を得た。また、施設等の更新工事を実施した。	
② 地場産物活用の推進	教育総務課	△ (多少の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	令和5年夏季の高温による野菜の生育不良や収量低下等により、東松山市産食材の使用が限定される結果となった。	

## ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
学校給食に使用した東松山市産の食材割合（％） 【取組②】	目標値	-	31.5	32.0	32.5	33.0	33.5
	実績値	31.3	18.6	36.3	27.4		
指標の説明	学校給食センターで調理した品目において、材料として使用した農産物（野菜類）に占める東松山市産の重量割合						
指標の達成率	C（80%以上90%未満）						
結果の分析	夏季の高温による野菜の生育不良や収量低下による野菜の供給不足、また、燃料費や肥料価格の高騰により野菜の小売価格も上昇したため、東松山市産食材の使用量は限定的となった。						

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	66点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	<p>◇食材の安全性確保を最優先とした上で、地場産物を継続的に活用するとともに、食についての正しい理解と望ましい食習慣の形成のため、食育活動を積極的に推進する。</p> <p>◇学校給食センターにおける調理業務等の委託化に向けた具体的な実施事項を整理するとともに、計画的な厨房機器等の更新を検討する。</p> <p>◇令和6年度は令和7年度以降の学校給食費の改定を検討し、また、高騰する燃料費や食材費に注視しながら、安心して安全な学校給食を引き続き提供する。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇引き続き、栄養教諭による授業等の児童生徒の食への関心を高める取組を推進するとともに、安心・安全な学校給食の提供を維持されたい。
-------	--

重点取組 1		③放課後子ども教室事業の推進	担当課	子育て支援課
取組の内容	概要	放課後の子供の居場所づくりの一環で、地域のボランティア等の協力を得て、子供たちに遊びや学習の場を提供する。		
	対象	市立小学校及び児童、地域住民		
	目標	市内全ての小学校で開設し、放課後の安全・安心な居場所づくりを推進する。		
結果	新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後において、各教室とも予防対策を講じて、小学校、地域のボランティアの協力を得て、全ての市立小学校で週2回程度開催することができた。延べ206名の児童が参加し、児童や保護者からはおおむね好評を得ることができた。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

重点取組 2		④放課後児童クラブの充実	担当課	保育課
取組の内容	概要	保護者が就労等により昼間家庭にいない世帯の児童を対象に、放課後に適切な遊びや生活の場を提供する。		
	対象	市立小学校に在籍する昼間家庭での養育ができない児童		
	目標	放課後児童クラブへの入所を希望する児童の受け皿を確保する。		
結果	令和6年度に新たに開設される民間放課後児童クラブの整備事業を支援した。また、夏休み期間に限り、待機児童を定員に余裕のある学区外のクラブに入所させる取組を実施したところ、10人が入所した。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

■その他の主な取組

主な取組	担当課	取組の評価
① 「学校応援団」活動の充実	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	各学校のニーズに応じた学校応援団ボランティアの予算的支援を行った。	
② PTA活動の活性化の推進	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	各学校ごとのPTA広報誌の発行や、PTA活動に資する研修会等の実施を支援した。	
⑤ 要保護児童対策の充実	子育て支援課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	要保護児童対策地域協議会の関係機関等において、会議や通告対応を通じて連携強化を図り、児童虐待の未然防止と早期発見、早期対応に取り組んだ。	
⑥ 青少年健全育成事業の推進	子育て支援課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	市内小中学校、高校及び自治会等の関係機関と連携した非行防止パトロール活動や、小中学校における非行防止教室を実施し、青少年の健全育成に取り組んだ。	
⑦ 虐待予防事業の推進	子育て支援課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	「どならない！子育て練習講座」やオレンジリボンキャンペーン、きらめき出前講座による啓発に取り組み、児童虐待の未然防止を図った。	
⑧ 子育てコンシェルジュによる切れ目のない支援の推進	子育て支援課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	窓口や電話相談に加え、オンライン相談を定期的実施したほか、積極的に保育所や地域子育て支援拠点へ訪問し、相談支援に取り組んだ。	
⑨ 家庭・地域社会・関係機関との連携強化	学校教育課 生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	子供たちの問題行動の予防や解決を図るため、家庭・地域社会・関係機関との連携を強化し、一貫性を持った生徒指導体制を確立することができた。	

## ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
学校応援団活動日数（日） 【取組①】	目標値	-	3,193	3,208	3,223	3,238	3,253
	実績値	3,163	1,840	1,615	1,893		
指標の説明	小学校11校・中学校5校の学校応援団活動日数（延べ）の合計						
指標の達成率	D（80%未満）						
結果の分析	新型コロナウイルス感染症の影響も少しずつ薄れ、学校応援団の活動も徐々に活発になっている。目標値には及ばないものの、活動日数は増加傾向である。						

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	70点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	<p>◇学校運営協議会等を通じて地域住民の学校教育に対する関心と理解を一層深め、学校・家庭・地域・関係機関が連携して教育に取り組む。</p> <p>◇令和6年度に「こども家庭センター」を開設し、全ての妊産婦、子育て世帯、子供への一体的な相談支援に取り組むとともに、子供の総合相談窓口としての機能を果たす。</p> <p>◇公立放課後児童クラブの定員の見直しや、民間放課後児童クラブの整備事業を支援することで引き続き入所を希望する児童の受け皿を確保していく。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇「こども家庭センター」の機能を広く周知するとともに、放課後子ども教室や放課後児童クラブの拡充に加えて、地域における子供の居場所づくりを検討されたい。
-------	---

基本目標 Ⅲ 家庭・地域の教育力の向上  
 施策 (2) 家庭教育支援体制の充実

重点取組 1		③家庭と連携した「ノーゲームデー」の推奨	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	毎月第2・第4水曜日を、ゲームやスマートフォンの使用を控え、家族との語りや読書活動を行う「ノーゲームデー」と定め、児童生徒や家庭への啓発を行う。		
	対象	市立小中学校児童生徒及び保護者		
	目標	「ノーゲームデー」の実践割合を88%以上とする。		
結果	「ノーゲームデー」啓発用ポスターを各学校で掲示したほか、保護者に対しても学校だより・学年だより等での周知を徹底し、家庭への啓発を行った。「ノーゲームデー」との相乗効果による学力向上を目指し、児童生徒の発達の段階に応じた宿題を用意し、その見届けを行った。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

重点取組 2		⑤家庭と連携した「東松山版家庭学習のすすめ」の普及啓発	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	家庭との連携を図りながら、「東松山版家庭学習のすすめ」を通して学習習慣を確立させる。		
	対象	市立小中学校児童生徒及び保護者		
	目標	「自学自習」できる子供たちを増加させ、学習習慣を身に付けるための取組を推進する。		
結果	各学校では、「東松山版家庭学習のすすめ」を活用し、発達段階に応じて「自主学習ノート」等への取組を行った。また、「東松山版家庭学習のすすめ」の電子データを各学校に配布し、家庭への周知や授業内での活用指導を行った。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① 地域子育て支援拠点の活用推進	子育て支援課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	各拠点において、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も一部利用制限や感染症予防を講じながらイベントなどを再開することにより、親子の交流やにぎわいを徐々に取り戻すことができた。	
② 「親の学習」の推進	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	就学時健康診断等において、「親の学習」講座を開催し、家庭の教育力の向上を図った。	
④ 家庭と連携した「宿題・手伝い・明日の準備」の徹底	学校教育課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	各学級の教室にポスターを掲示するとともに、徹底して行うことができるよう、学級活動等において繰り返し指導を行った。	

### ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
「ノーゲームデー」の実践割合（%） 【取組③】	目標値	-	85.0	86.5	88.0	89.5	91.0
	実績値	81.9	88.2	85.9	86.4		
指標の説明	市立小中学生を対象に実施したアンケートにおいて、「ノーゲームデー」の趣旨に沿った行動を心掛けたと回答した児童生徒の割合						
指標の達成率	<b>B（90%以上100%未満）</b>						
結果の分析	令和5年度の「ノーゲームデー」の実践割合については、各学校における取組状況に差が見られた。						

### ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	<b>70点</b>	<b>○（一定の成果が得られた）</b>
今後の方向性	<p>◇「ノーゲームデー」の趣旨について、各家庭への啓発等を継続することにより保護者の意識を高めるとともに、各学校の実情により柔軟に対応できるようにしていく。</p> <p>◇「体験活動」や「読書活動」に親しむとともに、実体験での学びを生かしながら、電子メディアとの付き合い方を学ぶ機会とする。</p>	

### ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇これまでの取組を継続し、各家庭の環境に配慮した支援体制の構築を図られたい。
-------	--

重点取組 1		②保護者・地域社会との連携強化	担当課	学校教育課
取組の内容	概要	教育に対する保護者や地域の理解を深める取組を行い、地域住民が学校運営に参加しやすい環境を整える。また、学校だよりやホームページを活用し、教育活動の様子や学校の取組を発信する。		
	対象	市立小中学校教職員、保護者及び地域住民		
	目標	保護者及び地域住民による学校運営の参加機会の確保と学校による更なる情報発信力の強化を行う。		
結果	新型コロナウイルスの影響により中止していた行事を徐々に再開し、地域住民を招待し交流を図ることができた。また、学校ホームページでは、学校だよりや保健だよりの掲載や学校の様子を日々更新する学校も多く見られ、年間の更新回数は平均74回になるなど、定期的に様々な情報を発信することができた。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

■その他の主な取組

主な取組	担当課	取組の評価
① 地域学校協働活動（学校応援団活動等）の推進	学校教育課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	学校応援団やPTA活動を支援し、学校応援団の延べ活動日数は1,893日となった。	

## ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
学校の情報を家庭・地域に発信する回数（回） 【取組②】	目標値	-	45	50	55	60	65
	実績値	35	41	68	74		
指標の説明	小中学校ホームページの平均更新回数						
指標の達成率	A（100%以上）						
結果の分析	学校だよりや保健だよりの掲載や学校の様子を日々更新する学校も多く見られ、定期的に様々な情報を発信することができた。指標である更新回数に留意しつつ、組織的により効果的な情報発信・更新を行う仕組みづくりを進めていく。						

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	70点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	<p>◇引き続き、保護者や地域住民に対し、積極的に教育活動の様子や学校の取組を発信し、<u>学校運営協議会</u>や<u>学校応援団</u>等を通じて、より多くの方が学校運営に参画できるようにする。</p> <p>◇各校において、家庭や地域に対して多様な手段により情報発信を行いつつ、紙媒体から電子媒体への切り替えや、適切な情報を適切な機会に発信する等により、教職員の負担増につながらない実施方法を検討・推進する。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇学校の情報を積極的に地域に発信するとともに、地域の人材を積極的に活用し、学校運営協議会や学校応援団の充実を図りたい。
-------	---

■重点取組 1		①生涯学習推進体制の整備・充実	担当課	生涯学習課
取組の内容	概要	「第2次社会教育推進計画」を基に、質の高い学習機会を提供する。		
	対象	市民		
	目標	市民の多様なニーズに対応できる体制を整備し、生涯の各期に応じた学習活動の充実に取り組む。		
結果		市民ニーズに対応できる体制を整備するため、市が実施する様々な講座・教室等の情報を集約する仕組みを導入し、講座等の企画に活用した。		
重点取組の評価		○（一定の成果が得られた）		

■重点取組 2		②社会教育講座の充実	担当課	生涯学習課
取組の内容	概要	急速に変化する社会の動きと市民のニーズを捉え、様々な分野において、バランスのよい社会教育講座を開催する。		
	対象	市内在住・在勤・在学の方		
	目標	社会教育として社会や市民の要請が強くあるため、市全体として統一感のある学習機会を提供する。		
結果		高齢者を対象とした「いきいきシルバー講座」の実施をはじめ、統一感を持たせつつ幅広い内容の講座を開催したことにより、参加者数が増加した。		
重点取組の評価		◎（十分な成果が得られた）		

■その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
③ 生涯学習のためのきらめき出前講座の充実	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	市民の学習機会の確保のため、講座メニューの見直し等を行い、80講座を用意した。その結果、市民からの要請を受け118回の講座を開催した。	
④ きらめき市民大学の充実	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	より充実したカリキュラムにするため、新たなテーマの講義の導入や講師の依頼によりカリキュラムの一部見直しを行い、179講座を実施した。	
⑤ 人権教育の推進	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	東松山市人権教育推進協議会の参加者を対象とした研修会を2回実施し、外部講師の講演や参加者による意見交換を行い、参加者の意識啓発や情報共有を図ることができた。	

■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
社会教育講座参加者数（人） 【取組②】	目標値	-	600	625	650	675	700
	実績値	543	485	678	803		
指標の説明	社会教育講座参加者数の合計						
指標の達成率	A（100%以上）						
結果の分析	高齢者を対象とした「いきいきシルバー講座」の実施など、様々な分野の学習機会を提供した結果、社会教育講座の参加者数は前年度比で増加した。						

■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	76点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	<p>◇「第2次社会教育推進計画」で定めた各事業に取り組み、各講座の参加者数・アンケート回答等のデータを収集・分析し、市民ニーズに応じた学習機会を提供する。</p> <p>◇社会教育講座については、「いきいきシルバー講座」を引き続き実施するほか、多様な事業者と連携しながら講座の充実を図り、更なる参加者数の増加を目指す。</p>	

■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇引き続き、市民ニーズに応じた質の高い学習機会を提供するとともに、社会教育講座の参加者増につながる取組の充実を図られたい。
-------	---

重点取組 1		②資料や講座等の充実	担当課	生涯学習課
取組の内容	概要	幅広い市民ニーズを捉えた資料を収集するとともに、生活の中の身近な課題解決につながる資料や東松山市の行政資料・地域資料についても積極的に収集する。図書館資料を軸とした市民の自主的な学習を行う場として、講座や講演会等の充実に取り組む。		
	対象	市民		
	目標	市民ニーズを捉えた資料収集に努めながら、地域の資料や情報についての収集・整理、情報発信を行う。また、新たな講座等の開催により図書館利用の増加につなげる。		
結果	図書館まつりにおいて大東文化大学教授河野芳英氏による講演会「ピーターラビットの世界へのお誘い」を開催（参加者56人）、また、歴史関連講座として日本考古学協会会員賀来孝代氏による講演会「考古学でバードウォッチング」を開催（参加者48人）した。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

重点取組 2		④子供の読書活動や調べ学習支援の拡充	担当課	生涯学習課
取組の内容	概要	家庭・地域・学校が一体となり、子供たちの読書活動が一層活発になるよう取り組む。		
	対象	子供や保護者、関係機関・団体等		
	目標	「東松山市子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携しながら子供たちの読書の習慣化を応援し、貸出利用者数増加につなげていく。		
結果	乳幼児を対象にブックスマイル事業（652人に絵本プレゼント）やおはなし会を実施（64回、455人参加）した。小学生向けに読書通帳の配布、図書館見学（9校）の受入れ、中学生・高校生向けイベントとして、ビブリオバトルの開催（参加者44人）や図書館におけるティーンズ向け図書の実施を図った。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① 図書館機能の整備	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	継続して、専門性を備えた司書を窓口等に配置した。また、施設の老朽化による不具合箇所の修繕を実施し、図書館機能の維持を図った。	
③ レファレンスサービスの充実	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	司書資格のあるスタッフの配置に加え、インターネット上で官報情報及び法令関係データベースを検索できるサービスを維持した。	
⑤ 子育て世代支援事業の充実	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	子育て支援コーナーの設置及び託児サービスの継続的な提供により、子育て世代の来館者に向けた支援を行った。	

## ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
1日あたりの来館者数（人） 【取組①】	目標値	-	1,200	1,225	1,250	1,275	1,300
	実績値	1,253	1,000	976	948		
指標の説明	東松山市立図書館・高坂図書館・なしの花図書館室を利用したそれぞれの延べ人数を各開館日数で除した合計						
指標の達成率	D（80%未満）						
指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
1日あたりの平均貸出点数（点） 【取組②】	目標値	-	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	実績値	1,968	1,775	1,686	1,692		
指標の説明	東松山市立図書館・高坂図書館・なしの花図書館室において、図書や雑誌、視聴覚資料の年間貸し出し点数を開館日数で除した合計						
指標の達成率	C（80%以上90%未満）						
結果の分析	1日当たりの来館者数、平均貸出点数共に目標値を下回る結果となった。スマートフォン等で読める電子書籍の普及やインターネットメディアの拡大など、情報収集の媒体・手段が多様化する中、相対的に図書館の利用が減少傾向にあるものと考えられる。その一方で年齢別の貸出利用者数の推移に着目すると、7～9歳、13～15歳の層において令和3年度以降連続した増加が見られ、「第2次東松山市子ども読書活動推進計画」に基づく取組の効果が現れたものと考えられる。						

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	70点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	<p>◇「第2次東松山市子ども読書活動推進計画」に基づく各施策に取り組み、その一環として、ビブリオバトルの開催・充実により、図書館利用の少ない中学生・高校生の利用増進を図る。</p> <p>◇電子図書館「比企eライブラリ」について、駅や商業施設でのポスター掲示など、幅広い周知を行うとともに、「電子図書館おはなし会」を通じ、電子絵本ならではの機能をアピールし、子育て世代の読書活動を推進する。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇引き続き、子供や中・高校生の読書活動が一層活発になるよう取組を推進するとともに、電子図書館「比企eライブラリ」の利用促進に向けた周知を図られたい。
-------	--

■重点取組 1		①スポーツ教室やスポーツ講演会の開催	担当課	スポーツ課
取組の内容	概要	スポーツ団体と協力して、学校や部活動では経験できないスポーツやレクリエーションを中心としたジュニアスポーツ教室の開催や、親子や家族で参加できるスポーツイベントを開催する。		
	対象	市民		
	目標	ジュニア世代を対象としたスポーツ教室を継続するとともに、スポーツやレクリエーションの楽しさを感じられるように、親子や家族で参加できるスポーツイベントを開催する。		
結果	大東文化大学と連携した小学生対象のスポーツ発見教室を5回、親子ウォーキングを2回、親子スポーツ教室1回、その他教室や講演会を含め、ほぼ計画どおり年間14回イベントを開催した。当該教室等の開催により、スポーツを通じた親子のつながりや楽しさを共有できる機会の確保を図った。 また、全体の開催回数は目標値を下回ったが、令和5年度は大学との連携をより深め、人気の教室であるスポーツ発見教室を例年の3回から5回に増やし実施することができた。			
重点取組の評価	◎（十分な成果が得られた）			

## ■その他の主な取組

主な取組		担当課	取組の評価
② スポーツ少年団等の活動支援		スポーツ課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	スポーツ少年団駅伝競走大会の開催や施設利用などを支援した。		
③ 学校体育施設開放事業の推進		スポーツ課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	小中学校の体育施設について、各校と学校行事や事務手続の確認を行いながら、学校教育に支障のない範囲で地域住民に開放した。		
④ 子育て世代への運動機会の提供		スポーツ課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	親子で参加できるウォーキングなどのスポーツ教室を3回開催し、子育て世代への多様な運動の機会を提供した。		

### ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
スポーツ教室・スポーツ講演会の開催件数（件） 【取組①】	目標値	-	13	15	15	16	16
	実績値	13	3	16	14		
指標の説明	東松山市スポーツ協会や東松山市レクリエーション協会などの関係団体の協力により開催したスポーツ教室・スポーツ講演会の件数						
指標の達成率	<b>B（90%以上100%未満）</b>						
結果の分析	スポーツ協会加盟団体によるスポーツ教室の開催数が前年度を下回ったことにより実績値が低下したが、おおむね目標どおりの開催件数を達成できた。						

### ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	<b>82点</b>	<b>◎（十分な成果が得られた）</b>
今後の方向性	◇ジュニア世代を対象としたスポーツ教室の開催を継続するとともに、スポーツやレクリエーションの楽しさを感じられるように、親子や家族で参加できるスポーツイベントを開催する。	

### ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇大学を始め様々な機関との連携を検討し、子供だけでなく親子や家族が「いつでも・どこでも・誰とでも」スポーツに親しめるまちとなるような取組を推進されたい。
-------	--

基本目標 V 生涯スポーツの推進

施策 (2) ウォーキングの推進と日本スリーデーマーチの充実

■重点取組 1		①ウォーキングセンターの機能強化	担当課	スポーツ課
取組の内容	概要	ウォーキングセンター事業を通じてウォーキングを普及する。		
	対象	市民		
	目標	各ウォーキング事業を通じて、身近で手軽にできるウォーキングを推進する。		
結果	「植物学博士牧野富太郎」さんと東松山の関わりにスポットをあてた特別展示を開催した。ウォーキングセンター事業について、市ホームページや広報紙で積極的に情報発信した。			
重点取組の評価	◎ (十分な成果が得られた)			

■重点取組 2		⑤国内最大の国際ウォーキング大会「日本スリーデーマーチ」の充実	担当課	スポーツ課
取組の内容	概要	日本スリーデーマーチの基本コンセプトを維持しつつ、新たな視点や取組を取入れ魅力をさらに向上させるとともに、日本一安心して安全で快適に歩ける大会を目指す。		
	対象	日本スリーデーマーチ参加者及び運営スタッフ		
	目標	新型コロナウイルス感染症の影響下において、感染症対策を行うことで感染者を出さず大会を実施する。		
結果	新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類となったことから、通常規模での大会を安全に開催できた。			
重点取組の評価	◎ (十分な成果が得られた)			

■その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
② ライフスタイルウォーキングの推進	スポーツ課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	日常生活において「歩く」ことを意識してもらうため、毎日1万歩運動を実施した。	
③ 歩いて育む「歩育」の推進	スポーツ課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	15の保育園・幼稚園が日本スリーデーマーチに参加した。各保育園・幼稚園に「てくてくわくわく歩育ブック」を配布した。	
④ ウォーキングコースの整備・充実	スポーツ課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	ウォーキングコースに設置された道標の点検及び整備を実施した。	

## ■評価指標

指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
ウォーキングイベントへの年間参加者数（人） 【取組①】	目標値	-	6,200	6,400	6,600	6,800	7,000
	実績値	6,028	9,330	10,772	10,759		
指標の説明	ウォーキングセンター主催のウォーキングイベントや、市内7か所の市民活動センターが実施する月例市民ウォーキングへの参加者の延べ人数						
指標の達成率	A（100%以上）						
結果の分析	ウォーキングセンター事業と月例市民ウォーキングが「いきいきパスポイント」対象事業として定着したことにより、前年度実績と同程度の結果となった。なお、令和6年度においては、令和5年度実績以上を目標値とする。						

## ■施策の総合評価と今後の方向性

総合評価	82点	◎（十分な成果が得られた）
今後の方向性	<p>◇本市ウォーキング事業の拠点施設であるウォーキングセンターで、季節の草花を鑑賞できるようにするなど、より市民に身近で魅力ある施設となるように充実させる。</p> <p>◇日本スリーデーマーチは、日本各地・世界各国のウォーカーが出会いとふれあいを楽しみながら歩けるように第47回大会を安全に開催し、また、デジタル化など持続可能な大会運営に向けた検討を進めるとともに、若い世代の参加を促す新たな取組を検討する。</p>	

## ■教育振興基本計画審議会からの意見・提言

意見・提言	◇幼児期からの「歩育」活動やウォーキングイベントを通じ、市民スポーツとしてのウォーキングを一層推進するとともに、若年層や親子での参加促進に取り組みたい。
-------	--

基本目標 V 生涯スポーツの推進  
 施策 (3) スポーツを楽しむ環境づくりの推進

重点取組 1		③スポーツ施設設備の維持管理	担当課	スポーツ課
取組の内容	概要	全ての市民が安全・安心に利用できる施設であるために、必要な改修や修繕を計画的に実施する。		
	対象	スポーツ施設		
	目標	予定された改修や修繕を計画どおり実施する。		
結果	東松山陸上競技場は日本陸上競技連盟のルール改定に合致するよう改修を行い、第3種公認競技場の認定を更新したことから、引き続き埼玉県陸上競技連盟公認の大会を開催可能とした。また、老朽化している東松山サッカー場防球フェンス等の改修工事を行い、安全・安心に利用できるよう施設の維持管理を行った。			
重点取組の評価	◎ (十分な成果が得られた)			

■その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① スポーツ指導者の育成と活用	スポーツ課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	スポーツ指導者研修会の開催を支援したほか、指導者の活用については周知方法を見直した結果、地域からの要望を受け、 <u>きらめき出前講座</u> を通じニュースポーツの普及を図ることができた。	
② スポーツ団体の活動支援	スポーツ課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	東松山市スポーツ協会、東松山市レクリエーション協会などの活動を支援した。	
④ スポーツ情報の発信強化	スポーツ課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	イベント情報や市内スポーツ選手の活躍などを積極的に発信した。	

■評価指標							
指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7
スポーツ指導者研修会参加者数 (人) 【取組①】	目標値	-	120	140	160	180	200
	実績値	104	0	82	69		
指標の説明	東松山市スポーツ指導者協議会が開催した、スポーツ指導者研修会へ参加した延べ人数						
指標の達成率	D (80%未満)						
結果の分析	研修内容が座学のみであったことなどから参加が少なかった。なお、令和6年度においては、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度の実績値程度の100人を目標値とする。						

■施策の総合評価と今後の方向性		
総合評価	82点	◎ (十分な成果が得られた)
今後の方向性	◇既存のスポーツ施設や学校体育施設を有効活用し、計画的な維持管理を行うことで、市民のスポーツ活動を支援する。 ◇運動部活動の地域連携に向けて、スポーツ団体等と協力して、スポーツ指導者の人材確保等の方策を検討する。 ◇東松山市スポーツ協会やスポーツ施設指定管理者と連携して、スポーツ情報の発信を強化する。	

■教育振興基本計画審議会からの意見・提言	
意見・提言	◇引き続き、関係団体との連携を図り、市民のスポーツ活動を支援するとともに、スポーツ指導者の育成の強化にも取り組まれない。

基本目標 VI 文化・芸術の振興  
 施策 (1) 文化・芸術活動の促進

重点取組 1		①「高坂彫刻プロムナード」を起点とした文化・芸術活動の推進	担当課	生涯学習課
取組の内容	概要	彫刻家高田博厚を顕彰し、遺族から寄贈された作品を通じて市民が文化・芸術に触れる機会を提供する。		
	対象	市民		
	目標	高坂彫刻プロムナードに設置されている彫刻の作者である高田博厚氏の功績を顕彰するため、遺族から寄贈された彫刻作品やデッサン、書簡等の展示や講演会を実施する。		
結果	彫刻家高田博厚の企画展及び常設展示（会場：市役所・市民文化センター・市立図書館）を実施し、広く市民に作品鑑賞の機会を提供した。また、企画展の期間中には、市内在住の陶芸家・島山圭史氏による講演会を実施した。			
重点取組の評価	○（一定の成果が得られた）			

その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
② 「小・中学校芸術鑑賞事業」の推進	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	公益財団法人東松山文化まちづくり公社への交付金事業により、アーティスト inSchool、劇団四季「こころの劇場」を実施した。	
③ 「東松山市文化祭」への支援	生涯学習課	○（一定の成果が得られた）
実施事業等の概要・結果	未実施団体もあったため16団体での開催となったが、チラシの全戸配布やポスター掲示、市ホームページへの掲載等による広報を実施した。	

評価指標								
指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7	
指標	「東松山市文化祭」参加者数（人） 【取組③】	目標値	-	5,700	5,850	6,000	6,150	6,300
		実績値	5,623	1,588	3,753	4,529		
指標の説明	毎年9月から3月にかけて約20団体が開催する発表会や大会などの総称である「東松山市文化祭」への参加者数の合計							
指標の達成率	D（80%未満）							
結果の分析	前年度よりは参加者数が増加したが、未実施の団体もあり、目標値を下回った。							

施策の総合評価と今後の方向性		
総合評価	70点	○（一定の成果が得られた）
今後の方向性	◇彫刻家高田博厚の企画展を引き続き実施するほか、「高坂彫刻プロムナード」を活用したイベントを実施し、広く市民が文化芸術に親しむ機会を提供する。 ◇文化芸術推進事業補助金を継続し、市内の文化芸術活動に対する支援を推進する。	

教育振興基本計画審議会からの意見・提言	
意見・提言	◇「高坂彫刻プロムナード」を活用したイベントの開催や、「東松山市文化祭」を始めとした文化・芸術活動の支援により、市民が文化・芸術に触れる機会の充実に図られたい。

重点取組 1		①東松山市文化団体協議会との協働	担当課	生涯学習課
取組の内容	概要	東松山市文化団体協議会発行の「文協だより」を全戸配布することで、会の活動内容を広く市民に発信する。また、文化・芸術が、市民の身近なものとなるよう、東松山市文化団体協議会の加盟団体と協働して市民への情報の提供に取り組む。		
	対象	文化団体協議会加盟団体		
	目標	加盟団体が実施する事業について広く情報発信等を行い、団体の強化発展に向けての支援を行う。		
結果	「文協だより」の全戸配布等を通じて、東松山市文化団体協議会の加盟団体が実施する事業について広く情報発信を行った。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

■その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
② サークル活動への支援	生涯学習課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより制約が解除され、活動を再開する文化・芸術等活動団体に対して、「後援」することにより活動を支援した。	

■評価指標								
指標名			R1	R3	R4	R5	R6	R7
指標	教育委員会による後援事業の件数 (件) 【取組②】	目標値	-	136	138	140	142	144
		実績値	134	112	130	117		
指標の説明	文化・芸術活動などを行う団体が主催する事業に対して、教育委員会が後援を行った件数							
指標の達成率	C (80%以上90%未満)							
結果の分析	ライフスタイルの変化や会員の高齢化の進展など文化芸術を取り巻く環境が変化している現状であり、より多くの市民に文化芸術へ触れる機会を提供するため、後援基準を満たすものについては全て支援を行った。							

■施策の総合評価と今後の方向性		
総合評価	70点	○ (一定の成果が得られた)
今後の方向性	◇新たに文化・芸術活動を始めようとする市民及び団体に対して、「文協だより」等により必要な情報を提供するとともに、イベントを実施する際には、既存団体等との協働を図る。	

■教育振興基本計画審議会からの意見・提言	
意見・提言	◇引き続き、文化・芸術活動を行う団体に対しての支援を継続するとともに、新たに文化・芸術活動を始めようとする市民に対しては、情報提供の充実を図られたい。

基本目標 VII 文化財保護  
 施策 (1) 文化財の保護と継承

重点取組 1		②文化財の保存・管理の充実	担当課	生涯学習課
取組の内容	概要	指定文化財の現状把握に努め、適正な保存管理を行う。		
	対象	市民・文化財		
	目標	市にとって貴重な財産である文化財を未来に継承する		
結果	指定文化財については、文化財パトロールにより現状を確認し、指定史跡については、委託業務による年間管理のほか、適宜草刈り等を実施し、適切な管理を行った。また、市の基本的な文化財の保護と活用のあり方を示した法定行政計画「東松山市文化財保存活用地域計画」を作成した。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① 文化財の調査・研究の実施	生涯学習課	◎ (十分な成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	平成30年度から令和4年度の5か年に渡って調査を実施してきた社寺建築悉皆調査の報告書を刊行した。正法寺所有の文書について、改めて調査をし、今後長く保存できるように中性紙の封筒に再整理した。埋蔵文化財は、発掘調査1件、埋蔵文化財所在確認調査25件実施した。	
③ 文化財の継承への支援	生涯学習課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	市内民俗芸能保持団体で構成される東松山市民俗芸能保存連絡協議会を支援し、第47回民俗芸能祭や研修を実施した。未指定の文化財の修理について助言し、見た目を損なうことなく修理が完了した。	

評価指標								
指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7	
指標	指定文化財パトロールの実施率 (%) 【取組②】	目標値	-	80	85	90	95	100
		実績値	80	63	87	90		
指標の説明	指定文化財の現状把握のために行う文化財パトロールを実施した割合							
指標の達成率	A (100%以上)							
結果の分析	文化財パトロールは、基本的に東松山市文化財専門調査員が実施しているが、職員が対応したものもあり、実施率が向上した。							

施策の総合評価と今後の方向性		
総合評価	74点	○ (一定の成果が得られた)
今後の方向性	◇指定文化財の適切な管理による保護を継続するとともに、文化財の中・長期的な保護及び活用のために、「東松山市文化財保存活用地域計画」を文化庁の認定を受けて策定する。	

教育振興基本計画審議会からの意見・提言	
意見・提言	◇文化財を継承する取組を継続し、文化財に触れる機会を通して新たな創造につながる取組についても検討されたい。

重点取組 1		②文化財に親しむ機会の創出	担当課	生涯学習課
取組の内容	概要	調査研究成果を活用した展示や講座、現地見学会等を通し、文化財を身近に感じる機会を創出する。		
	対象	市民		
	目標	市民の文化財保護意識の更なる高揚を図り、文化財を市民と行政が一体となって守っていく体制を確立する。		
結果	指標の目標値には達しなかったが、文化財講座等を通し、数多くの貴重な文化財が残されていること、それを未来に残していかなければならないことを伝えられた。また、箭弓稲荷神社社殿が重要文化財に指定され報道等市民が目にする機会が増えたことにより、改めて文化財が身近にあること、それを後世に伝えていくことの重要性を周知できた。			
重点取組の評価	○ (一定の成果が得られた)			

■その他の主な取組		
主な取組	担当課	取組の評価
① 文化財の情報発信の強化	生涯学習課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	文化財パンフレットの作成、市ホームページや解説板の更新等を実施した。	
③ 学校教育や社会教育の事業との連携	生涯学習課	○ (一定の成果が得られた)
実施事業等の概要・結果	きらめき市民大学や社会教育講座との連携事業を実施することができた。	

■評価指標								
指標名		R1	R3	R4	R5	R6	R7	
指標	文化財調査研究成果の公開回数 (回) 【取組②】	目標値	-	11	12	13	14	15
		実績値	15	6	13	10		
指標の説明	文化財についての調査研究の成果を公開した回数							
指標の達成率	D (80%未満)							
結果の分析	社会教育講座やきらめき市民大学と連携した講座は実施できたが、他からの講座依頼が少なかったことと、同様な企画を見直したため減少した。							

■施策の総合評価と今後の方向性		
総合評価	70点	○ (一定の成果が得られた)
今後の方向性	◇引き続き、社会教育講座やきらめき市民大学の講座等と連携しながら、文化財を身近に感じられる機会や理解を深める機会の創出に取り組む。 ◇ホームページや広報紙等による情報発信を積極的に行い、更なる文化財の啓発を行う。	

■教育振興基本計画審議会からの意見・提言	
意見・提言	◇文化財の啓発と活用を効果的に実施できる体制を整え、児童生徒や多くの市民が文化財に親しむ機会の創出を図りたい。

### 第3 参考資料

#### 2 用語解説 (※追加)

評価調書において下線 ( \_\_\_\_\_ ) を付した用語について、解説しています。

行	用語	説明	掲載ページ
は 行	比企eライブラリ	比企広域1市6町が共同で運営している電子図書館。パソコン、スマートフォン、タブレットからインターネットを通じて24時間、いつでもどこからでも電子書籍を借りることができるサービス。	35
	非認知能力	主に意欲、情動及び社会性に関わる3つの要素（①自分の目標を目指して粘り強く取り組む。②そのためにやり方を調整し工夫する。③友達と同じ目標に向けて協力し合う。）からなる、学力検査などでは測定できない能力。	9, 16